

#### 実施集団

➤ 発荷主 A (生産者団体)、運送事業者ア(元請)・イ(実運送)、着荷主 a・b (青果卸会社)、荷種：農産品(野菜)

#### 課題

- ✓ 当日の出荷数量がわからないため、選果完了時間がわからず、結果適正な配車（大きさや台数）ができず非効率。
- ✓ 一台の車で複数の集荷場で積み込むものの、各集荷場の情報共有が無くそれぞれで積み込みの時間がかかり出発時間が遅れる。

◆ 当日集荷した青果品を予冷設備にて予冷し、翌日出荷することで事前に数量が把握でき出荷作業を計画的に実施できるため、出荷作業におけるドライバーの待ち時間の削減が期待できる。

#### < 改善結果 >

a社向けトラック	実施前	実施後	短縮時間
出発時間(平均)	17:58	14:41	△3時間17分
完了時間(平均)	25:34	22:45	△2時間49分

  

b社向けトラック	実施前	実施後	短縮時間
出発時間(平均)	17:29	14:54	△2時間35分
完了時間(平均)	23:13	21:18	△1時間55分

※ 予冷設備にて予冷し、翌日出荷することで出荷作業を計画的に実施できるため、ドライバーの待ち時間を削減

**出発時間及び輸送完了時間**



**各々約 2～3 時間短縮**

※課題解決に向けた課題：予冷設備の設置・運用にかかる費用及び設備までの横持ち費用の負担